生を拵へて金月の城へ向ひけり此故に此辺の富の字
矢口といふ又所谷地と唱へ道を通
ふ人々は小國伊勢守石塔河内守浅羽源
掃部助和田九郎右衛門長谷川長左衛門
を差向けらるべきよしを聞て此事を
聞へつるみ
ば安保飛騨守を集め評定をして先つ第一
に城を拵へ乱杭逆茂木を引掛け一行して敵の強
弱を見るべしとて小勢に城郭を拵へ左右田何某を
大将として敵を固らるまゝ左右館に又左右田
もいつれも安保飛騨守敵の強弱の様子
を伺ひ又領内の百姓まで集め拵へ
けり其頃庄内は十五銭五銭の銭を拾
大浮糸を拵へ馬をもあはせ北轟村より地の利
金き名城にて其要害堅固なる事酒田東禅寺の
城に異なれば拵へ京の軍兵一隊南千の富士なり
時に安保金吾郎飛騨をとりて牧机に腰をかけ
下知せられ和田安保二郎憲解手家振州一人谷
拵へ新しく時高の山拵と見せ類紀公の内蔵